

Repos de midi

Happy Earth Day OSAKA 出店インタビュー

今回ご紹介させていただくのは、Repos de midi さんです。様々な天然素材から丹精込めて手作りで作られた石鹸「まにまつく石鹸」を販売されています。今回のインタビューでは、この石鹸がどのように作られたのか、そしてそこにかかる思い、アースデイとの繋がりといった内容についてRepos de midiの代表である宮地さんにお話を伺いました。

Q なぜ石鹸の販売を始めたのか？

A もともと私たちではなく、友人が作って販売だけをしていました。五年前にその友人がオーストラリアに移住することになったのですが、使い終わるまで続く天然アロマの香りの良さを使い心地の良さで、その頃には私たちの周りにもたくさんユーザーさんがいました。「やっぱりこの石鹸じゃない」という自分たちと自分たちの周りのユーザーさんを代表して石鹸作りを引き継ぐことにしました。築百五十年のこの建物は夏は涼しいのですが、冬が本当に寒く、本当にアナログで日々気温と湿度と向き合いながら、コツコツと石鹸作りをしています。

Q 商品に対するこだわりは？

A 石鹸以外にも様々なものを販売していますが、共通してこだわっていることは、「丁寧に作られているもの」「自分が使っていて良いもの」「飽きがこなくて長く使えるもの」です。料理人であったおばあちゃんやひいおばあちゃんが使っていた包丁といった台所用品の中には百年ほど使っているものがあり、結局使い捨てではなく、ずっと使えるもののほうが良いと思うようになりました。「安いから」というって買うのではない



「meinmuk」とは、オーストラリアの先住民の言葉で、「なんとなくいいね」「なんとなくかっこいい」。「Repos de midi」は「昼休み」という意味。

Q 出店のきっかけは？

A 石鹸を作り始めて三年、もっと多くの人にこの石鹸を作ってもらいたいなと思い、全国各地のイベントに出店するようになりました。そこで、最初に出会ったのがハッピーアースデイ大阪です。様々なイベントに出させてもらっていますが、アースデイに来てくださるお客さんはすごくいい。石鹸とお客さんの相性がすごく合うというのももちろんですが、雰囲気がアットホームなところも気に入っています。

Q これからの目標は？

A いろいろな人と連携して枚方にまだまだたくさん素敵なお店を増やしたいです。うちでも派生して石鹸だけで、もう一店広げていきたいですね。まだまだ頑張って全国から「Repos de midi」にきたいから枚方に来た」という人ができるように嬉しいです。全国どこにもあるお店ではなく、ここにしかないわざわざでも来てみたいという魅力あるお店にしたいです。

今回のインタビューでは、ここに書きつくせないほどの素敵なお話をたくさん聞かせていただきました。書ききれないことに悔しさを感じるほどです。最後に宮地さんから学生に向けた言葉で締めくくります。「目の前にあることから逃げない。クリアできるから。クリアしていくと、自分のやりたいこと、夢につながっていく。」様々なことにこだわりチャレンジし続けている宮地さんだからこそ伝えられる言葉でした。

